

浜田市・米子市・境港市行政視察報告

平成27年12月

市 民 ク ラ ブ

はじめに

市民クラブでは平成27年11月17日から11月19日にかけて島根県浜田市、鳥取県米子市、鳥取県境港市の行政視察を行いました。ここに報告書をまとめて提出いたします。

視察日程 平成27年11月17日（火）～11月19日（木）

視 察 先 島根県浜田市
鳥取県米子市
鳥取県境港市

会 派 市民クラブ

参加議員 田中 力、中島清晴、松田俊助、永作邦夫、川口 保

報告書作成 浜田市 永作邦夫
米子市 川口 保
境港市 川口 保

報告者提出 代表者 松田俊助

島根県浜田市の行政視察

1) 視察日 平成27年11月18日(水)

2) 視察事項

- ①浜田市定住促進のためのシングルペアレント介護人材育成事業について
- ②空き家バンクの取り組みについて

3) 視察目的

- ①シングルペアレントの救済と、今後全国的に問題となっていく、人口減少及び介護人材不足を少しでも解消するための取り組みを視察した
- ②松阪市においても空き家の増加が大きな問題となっており、浜田市の先進的な空き家対策の取り組みを視察した。

4) 対 応

浜田市議会 議長 西田 清久 氏

浜田市地域政策部 次長 宇津 光 氏

浜田市地域政策部 政策企画課定住婚活推進係長 大屋 一幸 氏

浜田市議会事務局 次長 外浦 和夫 氏

浜田市議会事務局

〒697-8501 島根県浜田市殿町1番地

TEL 0855-25-9800

5) 受取資料

- ①浜田市定住促進のためのシングルペアレント介護人材育成事業について
- ②浜田市議会概要



1. 浜田市の現況

1) 浜田市の概要

平成 17 年 10 月 1 日に、浜田市、金城町、旭町、弥栄村、三隅町の 5 市町村が合併し、新「浜田市」が誕生しました。

全国に誇れる海、山などの美しい自然と、石見神楽やユネスコの無形文化財遺産に記載された石州半紙などの伝統文化、海水浴場、スキー場、しまね海洋館アクアスなど豊かな自然を活かした観光資源を有しており、また、高速道路、港湾などの都市基盤や大学、美術館をはじめとする教育文化施設が充実した、人と文化と自然の調和のとれた島根県西部の中核都市です。

2) 浜田市の歴史

浜田市は、旧石器時代から人々の営みが認められ、早くから開けるとともに、奈良時代には石見国の中心地として、国府や国分寺などが置かれました。

鎌倉時代になると、福屋氏、周布氏、三隅氏、永安氏などが支配し、周布氏や三隅氏は朝鮮王朝とも交易を行い、港が賑わいました。

元和 5 年（1619）に松坂藩主であった古田重治が浜田に移封され、浜田藩初代藩主になりました。翌年から浜田城の築城に着手し、同藩は慶応 2 年（1866）まで 248 年続きました。

江戸時代の浜田市は、海岸部に浜田藩（5.5 万石）、山間部に津和野藩（4.1 万石）が置かれ、現在の市街地には浜田藩の城下町が建設され、港の発展と山間部で生産された半紙、鉄などが輸出されました。しかし、慶応 2 年（1866）の第二次幕長戦争で、長州軍の進攻を受け、浜田藩は自焼退城となりました。

明治 3 年（1870）、浜田県の県庁所在地となり、翌年には津和野県を廃して合併し、石見の中核都市としての土台が築かれ、明治 9 年（1876）に島根県と合併しましたが、那賀郡役所が置かれるとともに、港の整備や山間部の道路整備などの近代化が図られ、発展しました。

2. 浜田市定住促進のためのシングルペアレント介護人材育成事業について

1) 事業の発案

平成 26 年 8 月 女性の意見を反映させるため女性職員によるプロジェクトチーム「チーム CoCoCaLa」（ここから）を設立。

定住人口増加に向けて、女性の視点からの施策を提案。その中に、ひとり親の支援を内容とする提案があった。

2) 事業構築の背景

①母子世帯の増加

全国で平成 18 年と比べ平成 23 年度は母子世帯が約 9 万世帯増加。

- ②母子家庭の就業状況を見ると平成 23 年度全国母子世帯等調査によると、母子家庭の 80.6%が就業、「正規の職員・従業員」が 39.4%、「パート・アルバイト等」が 47.4%（「派遣社員」を含むと 52.1%）と、一般の女性労働者と同様に非正規の割合が高い。

より収入の高い就業を可能にするための支援が必要。

- ③浜田市の介護人材が不足している。

3) 事業の概要

①勤務施設

一人親の世帯が浜田市に転入し介護施設で勤務（今回の募集では、特別養護老人施設を中心に市内 7 施設）を対象とした。

②支援の対象者（3 名程度を想定）

ア、浜田市外在住のシングルペアレントで、高校生以下のお子さんと浜田市に移住できる方。

イ、浜田市が指定する介護サービス事業所（特養等 7 施設）で就労が可能な方。

ウ、支援終了後も浜田市に定住する意志のある方。

エ、年内に引越しを完了し研修開始が可能な方。

オ、申請認定時に年齢が 65 歳未満の方。

カ、介護職場での就労が未経験の方。

③支援メニュー

ア、給与

月額 15 万円以上の給与（事業所の規定に準じて支給）2 年目以降は事業所からの給与支給。

イ、教育支援金

1 世帯につき月額 3 万円。

ウ、家賃助成金

1 世帯につき家賃月額の 1/2（上限 2 万円）2 年目以降はなし。

エ、自動車の提供

中古自動車が無償提供（保険料等の費用は本人負担）2 年目以降継続して所有できる。

オ、一時金（支度金）

転入時の引越し代等の支度金として事業所から 30 万円を支給。

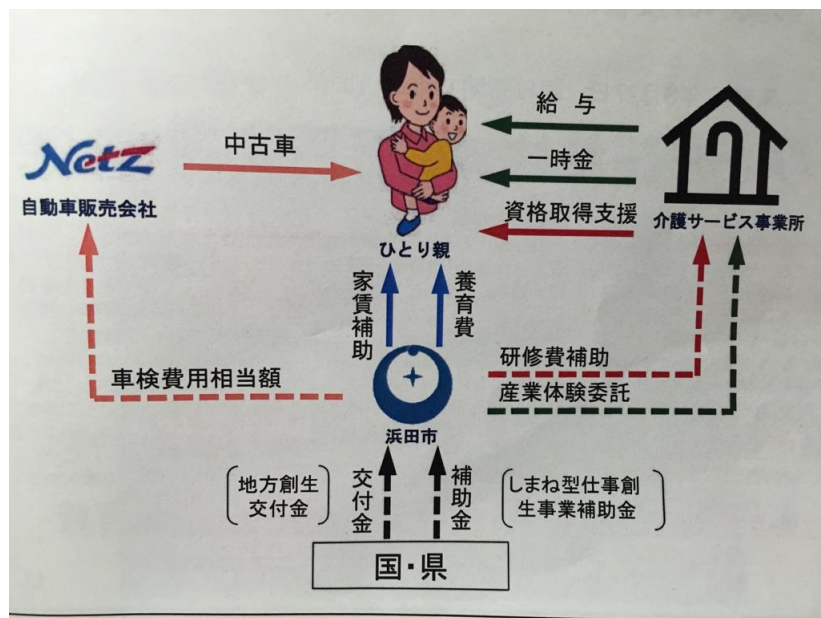
カ、一時金（奨励金）

1 年間の研修終了時に事業所から 100 万円を支給（2 年以内に退職した場合

合には要返還)
キ、資格取得支援

事業所の負担により「介護職員初任者研修」を受講。

4. 事業スキーム



事業の流れは上の図の通りで、支援金の原資は市と県の外郭団体「ふるさと島根定住財団」が最大326万円、事業所が74万円持つ。

5. 事業スケジュール

事業スケジュールは次のように進められた。

- ①研修生募集 平成27年5月1日～28日
- ②事前相談会 5月8・9日、10・11日
- ③見学・面談会 7月4～6日
- ④一次審査 7月中旬
- ⑤審査結果通知 7月下旬
- ⑥最終審査 8月中
- ⑦審査結果通知 8月下旬から9月初旬
- ⑧浜田市へ転入 9月初旬
- ⑨研修開始 10月初旬

6. 支援の対象者決定までの取り組み

①募集開始と相談会の開催

5月1日～28日の間、ホームページで募集、問い合わせの多かった3都

市（東京、大阪、福岡）で相談会を開催。

②募集締め切り時の応募者数 10 都府県から 15 人。

③見学・面談会の開催

見学会は、7月4日（土）～5日（日）に行い、市内の介護サービス事業所の見学と、生活環境に関する施設の見学。

面談会は、見学会に続き、6日（月）に行い、事業所と定住担当との個別面談。参加者は6名。

④見学会後の取り組み

一次審査、最終審査を行い、審査の結果4名が合格をし、4名中3名が10月1日から、1名が11月1日から研修を開始。

7) 支援対象者への対応

①住宅については、空き家バンクに登録してある空き家や市営住宅を紹介。

②保育所については、入所可能な保育所を紹介、夜間勤務等一時的に子供を預ける必要がある場合は、ファミリーサポートセンターが行う。

③相談員の配置し生活上の相談に対応する。

④歓迎会を開催し、移住してからの状況を聞く場として、市長を交えての歓迎会を開催。

8) 今後の事業展開

①第2期生を募集中で、研修開始を平成28年4月1日と予定。

②他の介護施設への展開、グループホームや老健（夜勤あり）
通所施設や、訪問施設への展開。

③他の施設（看護師、看護学校等）への展開。

9) 事業展開上の課題

①24時間対応の保育所等、夜勤の時の子供を安心して預けられる環境の拡充。

②2年目以降の支援がなくなる。

③国の地方創生交付金の減額が心配される。

所 感

今年度始まったばかりの事業であるが、3月には朝日新聞が、また、4月には毎日新聞が大きく報道し全国からの問い合わせが153件もあり、また、5月には市長が、首相官邸に招かれて、内閣官房副長官に事業を説明すると云うユニークなアイデアである。まだ一年目で4名の支援対象者ではあるが、継続して応募者が集まるよう、よ

り民間の協力と連携が必要になると思われる。

3. 空き家バンクの取り組みについて

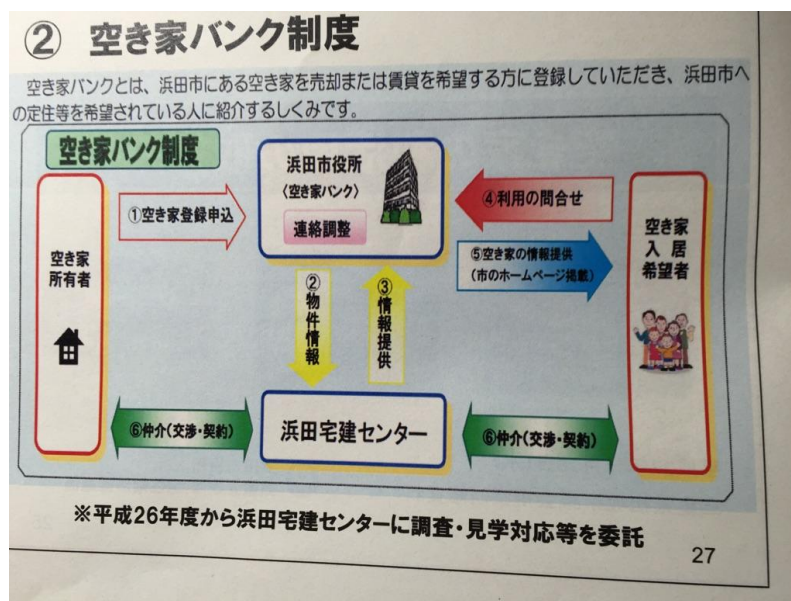
1) 空き家一斉調査

平成21年9月1日～平成23年3月31日（国の緊急雇用事業により空き家調査員を雇用し、実施。（平成21年度10名平成22年度5名）

現地調査件数3,487件のうち空き家件数1,748件で利用可能件数は（空き家調査員が外観調査により利用可能と判断した件数は、910件であった。

2) 空き家バンク制度

空き家バンク制度のスキームは、次の図の通りで、平成26年度からは、浜田市宅建センターに調査、見学の対応を委託している。



3) U・I ターン者の状況

平成27年9月30日時点の空き家バンクの状況は、空き家バンク登録物件数（累計）は、92件でそのうち79件が入居し、入居率は85.9%と高く、U・I ターン者の入居は、79件中42世帯となっている。

4) 空き家改修補助金

○実施年度 平成23年度～平成25年度

○目的 空き家を改修して浜田市に定住しようとするU・I ターン者に対し

て、その回収に要する費用の一部を補助することにより、浜田市への定住促進と、空き家の有効活用を図る。

○制度の概要

- ①補助金額 改修費の 2/3（上限百万円）
- ②対象者 空き家バンクに登録している所有者・U・I ターン者
- ③対象工事 屋根・台所・浴室・トイレ・外壁・床板等
- ④申請期限 転入から 1 年以内
- ⑤留意事項 同一物件につき 1 回限り
- ⑥実績 平成 23 年度から 25 年度の 3 年間で 12 件 9 百 22 万円

5) 今後の展開

空き家の登録数が減少傾向にあるため、増やす次の 4 つの対策を検討。

- ①棄権家屋調査データの利活用
- ②再度、自治会を通じ所有者の把握
- ③空き家登録を促す PR の方法
- ④空き家登録を促す補助制度の再検討や改修及び家財撤去補助

所 感

全国的に空き家が増加をしている状況の中、浜田市では 6 年前の平成 21 年から調査を開始し、U・I ターン者が増加しその成果が 42 世帯 89 人と出ている。また、今回の視察調査の 1 項目のシングルペアレント介護人材育成事業に於いても定住促進のための事業であり、新しい事業と関連する事業の構築がされており、松阪市に於いても一つの事業を切り出しに、それと関連、連携するような事業展開ができるよう進めることが大事であると感じた。

鳥取県米子市の行政視察

- 視 察 日 平成27年11月18日（水）
- 視察事項 学校給食センターの建設経過及び給食費収納対策について
- 視察目的 松阪市では北部学校給食センターの整備事業が計画されており、その手法がPFIもしくは従来方式か議論がなされている。会派では平成27年6月に学校給食センターのPFIの先駆者である千葉県浦安市を視察したが、今回は従来方式を選定した同市の取り組みを視察した。またどの自治体でも難しい給食費の未納問題への取り組みを聞いた。
- 対 応 米子市教育委員会事務局 学校給食課次長兼課長 松浦 博美 氏
米子市教育委員会事務局 主査兼学校給食課
米子市立第二学校給食センター施設長 清水 寛明 氏
米子市議会事務局 局長 石原 慎吾 氏
同 柄川 英彦 氏

米子市教育委員会事務局

☎683-0045 米子市大谷町28番8

TEL 0859-33-4751（学校給食課）



1. 米子市の概要

米子市は鳥取県の北西部に位置し、突き出た半島部分は北部を日本海に、西部は汽水湖である中海に接する。当地域は奈良時代には海であったが、砂鉄を取ったあとの廃砂が流れ出て堆積して半島ができた。同市で汲み出される地下水は、大山からの伏流水で、日本でも有数の名水となっている。

市制が施行されたのは昭和2年であり、平成17年3月に淀江町と新設合併をしたが、現在の人口は約15万人、面積は約132km²。

米子市は山陰地方のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝であり、江戸時代の鳥取藩は町人が自由に出入りができ、北前船が栄えた。明治以降も商業のまち、鉄道のまちとして栄えてきた。現在でも米子空港、鉄道では伯備線や山陰本線がとおり、中国横断自動車道岡山米子線や山陰自動車道の交通網も発達し山陰の玄関口の役割を果たしている。

市内には大規模な病院が6つもあり、人口当たりの医師の数は全国2位。また介護師が多く、サービス付き公営住宅も多い。

2. 学校給食センターの建設の経過

米子市の学校給食はもともと各学校で調理をしていたが、O-157による食中毒が全国で発生したことから、平成11年から計画的に整備が進み、これまでのウエット方式からドライ方式に転換し、平成13年から共同調理場に移行した。

現在米子市内には小学校23校、中学校11校、市立養護学校1校、県立養護学校1校、があり、5ヶ所の給食センター・調理場で調理され配食されている。今回は5つの調理場の内、一番最後に建設された第二学校給食センターについて話しを聞いた。



米子市第二学校給食センター

1) 第二給食センター実施までの経過

このセンターができるまでの中学校の給食は組合立の2校においては実施されていたが、旧米子市の中学校では行われておらず、前市長の時代から中学校の給食の実施を願っていたこともあり、平成23年現市長が中学校の給食を実施するための指示が出され。平成23年4月「米子市中学校給食事業庁内検討委員会」が設置された。

その後の経過の主なものは次の通りである。

- 平成24年9月 実施計画書作成
- 平成25年2月 第二学校給食センター（仮称）基本設計
- 平成25年4月 用地取得
- 平成26年3月 建築工事、機械設備工事、電気設備工事の開始
- 平成26年4月 保護者学校給食の実施の情報発信
- 平成26年9月 保護者に学校給食に関するお知らせ、食物アレルギー対応についてチラシを配布
- 平成26年12月 米子市立第二学校給食センター完成
- 平成27年4月 中学校の給食開始

2) 新学校給食センター（米子市立第二学校給食センター）の概要

平成7年4月に新しく供用を開始した第二学校給食センターはこれまで一部の学校でしか行われていなかった中学校への給食を完全実施するために開設された。実施概要は次の通りである。

- 用地面積 5,470㎡
- 調理能力 5,000食/日（調理数4,484食/日 H27.6.1現在）
- 従事者 調理人 30人（内正職員 15人 臨時15人）
運転手 4人
事務員 1人
- 仕様 ドライ方式
- 厨房方式 オール電化厨房
- 献立 市で行い、全調理場統一
- 食材確保 市で行っており、地産地消率は高い
- 配食範囲 5小学校、4中学校。全ての学校へ15分以内で到着する
- 建設費 1,692,258千円
- 給食開始 平成27年4月9日

3) 新学校給食センター建設に当たっての理念

建設に当たっては新たな土地の取得は行わないとして、米子市流通業務団地内の市

有地（土地開発公社所有）の土地を活用した。

P F Iについては近隣の大田市へ視察に行き検討されたが、市でできることは市の方で行って、安価に仕上げるとして従来方式を取り入れた。

光熱はオール電化方式が用いられ、学校給食調理場としては全国最大規模の施設となっている。オール電化により調理室内の温度管理がしやすくなり、働きやすい環境を保持し、細菌の発生を抑えることとした。



第二給食センター内部

そのほか衛生面では、現在ほとんどの新設給食センターで取り入れられているドライ方式とし、各作業区分で二次汚染を防ぐために非汚染区域と汚染区域を明確に区分できるようにして、泥のついたジャガイモ等ピーラーにかけて下処理をすることとした。またエアシャワーを設置して調理員等の衣服に付着した異物等を除去し、清楚な状態で作業ができるようにした。また入口にはエアカーテンを設置し、外部からの虫などの侵入を防いだ。

3. 所感

米子市では学校給食センターの建設に当たり近隣の大田市に視察に行きP F Iについても考慮されたが、市でできることは市の方で行って、安価に仕上げるとして従来方式で実施された。土地の新たな取得を行わず米子市流通業務団地内の市有地（土地開発公社所有）の土地を活用した。また建物の設計も市で行ったということでした。

衛生面では当然のことながら従来方式であってもP F Iであっても細心の注意が必要であり、P F IのS P Cによっては一度も食中毒をでしなかったところもあると聞いている。

米子市ではドライ方式はもちろん、エアシャワーやエアカーテンなどを設置して虫や異物の侵入を防いだり、食材の搬入、洗浄、調理にも細心の注意がはらわれていた。

前回会派で視察した千葉県浦安市のP F Iによる学校給食センターの開設と、今回視察した米子市の従来方式による学校給食センターの開設を対比して見ることができた。

3. 給食費収納対策について

米子市の学校給食費の未納は平成21年に700万円を越え、未納解決に向けて話し合いが行われた。

学校給食法で給食に必要な施設・設備に要する経費及び運営経費は学校設置者（ここでは米子市）が負担し、食材等は給食を受ける保護者が負担することになっている。米子市では行政とは別に「財団法人学校給食会」を設置し、保護者から給食費等の徴収を行っている。

1) 学校給食会の未納問題への取り組み

給食費に未納が生じると学校給食の運営上大きな影響を及ぼすとして、米子市教育委員会と財団法人学校給食会では平成24年3月に「学校給食費の未納に関する方針」を策定し、給食費の未納問題に取り組むことになった。

これまで給食費の未納については各学校で管理していたが、未納解消のため学校給食会では未納の情報を集約し、現状を把握した。保護者に対して「学校給食の提供に関する約款」を示し、学校給食に係る債権・債務の関係を明確にし、学校給食会と保護者の間で契約を結んだ。

2) 給食費未納問題解消に向けて

給食費未納問題の解消に向けて教育委員会では「学校給食費未納対策マニュアル」を作成し、学校、学校給食会及び教育委員会が協力して取り組んだ。

1年間未納が続いたとき、給食会から支払いを催促のため未納者に文書の送付を行ったが、1回目と2回目は内容を変えた。未納者との面談や接触を行う。債務承認書及び分割納付誓約書の提出を求めて債権の確保や、時効の中断確保、債権確保のための訴訟も行うとしています。

また学校給食の意義や役割など保護者の理解を得るための広報活動や、未納世帯に対して経済的な問題に対応するため生活保護又は就学援助制度について、周知を図った。

平成21年に700万円を越えていた給食費の未納は、平成26年度では440万円となり、同年度だけでは180万円で収納率は99.65%となった。また平成27年（9月まで）99.73%に改善した。

3) 所 感

給食費の未納問題はどこの自治体でも、市営住宅の家賃や保健税の未納などともに頭の痛い問題である。米子市では「財団法人学校給食会」が給食費を徴収しているが、校長が取り集め管理することは差し支えないとしている。

未納に対しては教育委員会が作成した「学校給食費未納対策マニュアル」に沿って粘り強く徴収が行われ成果をあげている。

松阪市ではそれぞれの給食センターに「連合協議会」をつくり給食費の徴収を行っている。学校別で調理が行われている学校は校長が集めることになっており、ベルランチだけ未納対策マニュアルが作られている。

米子市と松阪市の給食費の徴収率は次のように両市とも同じような値を示している。

米子市の給食費の収納率は

平成26年度—99.65%

平成27年（9月まで）—99.73%

松阪市の給食費の収納率は

平成24年度—99.72%

平成25年度—99.76%

平成26年度—99.75%

給食費の未納による不足分は、他の善良な保護者が負担することになり、公平性からも問題ある。また未納の給食費の徴収は教師があたることになり、教師の負担が増えることになる。このため一部の教師に負担を強いることを緩和するためにも、米子市のような組織的な回収システムを作っていくことが必要であろう。

鳥取県境港市の行政視察

視察日 平成27年11月19日（木）
視察事項 観光事業について
視察目的 境港市はかつては日本有数の魚の水揚げを誇る港町であったが、阪神淡路大震災のあと、水揚げは6分の1に激減した。中心市街地は衰退しシャッターの閉まる店が増えてきた。何の観光資源もないこのまちを活性化させ観光客を呼び込む仕掛けがの取り組みが行われた。どこのまちでも直面する中心市街地の活性化への取り組みを視察した。

応 対 産業部 通商観光課 課長 木村 晋一 氏
水木しげる記念館 館長 庄司 行男 氏
境港市議会事務局 事務局長 川端 豊 氏
同 局長補佐兼議事係長 片寄 幸江 氏
境港市議会議員 総務民生委員会委員長 景山 憲 氏

境港市産業部

☎684-8501 鳥取県境港市上道町 3000 番地

TEL 0859-47-1050



1. 境港市の概要

境港市は鳥取県の北西部にあたり、弓ヶ浜半島の北方先端部に位置し、南は米子市に接し、半島の東は美保湾、西側は汽水湖の中海に面している。また北側は境水道を経て島根県松江市と続く。市域は東西・南北4×5面積は約29km²と狭く、人口は35,354人。(平成27年4月1日現在)

弓ヶ浜半島は隣接する米子市がかつては砂鉄の産地であって、砂鉄を取った後の廃砂が流れ出て堆積してできた半島である。山はなく、平坦地が続く。

境港は古くから天然の良港で国内航路の要衝として活況を呈し、古くから対岸貿易の中心として栄えた。漁獲水揚量は平成4年から5年にかけて2年連続全国1位を記録し、今もカニの水揚げは日本一である。

平成16年には5万トンの岸壁が整備され、平成21年には韓国の東海港やロシアのウラジオストック港を結ぶ定期貨客船が就航した。また市内に立地する米子空港(愛称:米子鬼太郎空港)は国内航空路のほかソウル便が就航している。

境港市は漫画家水木しげる氏の出身地で「ゲゲゲの鬼太郎」などのキャラクターを生かした観光事業に取り組んでいる。

2. 観光事業について

境港市は、かつては日本でも有数の魚の水揚基地であった。ところが阪神・淡路大震災を境に魚の水揚量が激減し、また大型店の進出などにより市街地ではシャッターを閉める店が多くなって、まち全体が衰退していった。この苦境を脱するために目をつけたのが妖怪であった。

1) 水木しげるロード作成の経過

元気のなくなったまちに賑わいを取り戻すべき、当時の市長が、進んだ考えを持つある市職員に、まちの活性化に取り組むよう命じた。

その職員が目をつけたのが境港出身の人気漫画家水木しげる原作の「ゲゲゲの鬼太郎」に出てくる妖怪たちである。職員は水木しげる氏と交渉して、無償で妖怪の使用を認めてもらい、妖怪の像をまちなかに立てていく計画をたてた。ところが事は簡単に進まず、商店街の人たちは「このすたれた町に妖怪か、町がなおすたれるではないか」と猛反対にあった。しかし粘り強く説明して、何とか商店街の人たちに了承を得ることができた。

妖怪の像は1基60万円(現在は100万円)もかかり、市のほうではそんなに予



算を組めるわけではなく、全国に向けてスポンサーを募り、まず平成15年～平成20年にかけて16基の妖怪のブロンズ像を商店街に立てた。そうしたところこの妖怪がマスコミで報じられると、観光客が来るようになり、毎年妖怪の像が増えていくと観光客も増えていき、平成22年NHKテレビで水木しげる氏をモデルとする「ゲゲゲの女房」が放映されると観光客数はピークに達した。



境港市の入込客数の推移

平成14年	614,555	
平成15年	854,474	
平成16年	779,364	
平成17年	855,207	
平成18年	926,909	
平成19年	1,478,330	
平成20年	1,721,725	8/10 累計1,000万人
平成21年	1,574,710	
平成22年	3,724,196	「ゲゲゲの女房」放映過去最高記録
平成23年	3,221,428	5/4 入込数/1日過去最高
平成24年	2,705,156	5/4 累計2,000万人
平成25年	2,836,529	
平成26年	2,319,537	2/11 累計2,500万人突破

今年（平成27年）は前年度比80%の180万人を見込んでいる。

2) 妖怪を主人公に観光コースを線でつなぐ

米子駅の0番ホームからJR境線で境港市の玄関口となる境港駅に到着する。この鉄道は乗降客数が減少して廃止寸前であったが、列車の内装や外側には妖怪の絵を描がき「鬼太郎列車」としてよみがえった。また駅名も妖怪の名前がつく徹底ぶりである。境港駅に着くと妖怪に迎えられ、そこから全長800mの水木しげるロードがスタートする。



商店街の中の妖怪を見学しながら、そしてみやげ物屋を覗きながら散策すると、ロードの終点には「水木しげる記念館」がある。この記念館は平成5年3月に開館し、平成9年後にはリニューアルし、水木プロダクションの意向もあり市の方で運営している。同記念館は自治体が運営する観光施設としては珍しく黒字経営を続けていて、利益を市の一般会計に繰り入れている。

水木しげるロードの終点から魚のオブジェが並ぶ「おさかなロード」が新たに加わり、日本一の魚のはく製水族館「海とくらしの史料館」と共に新しい観光資源となっている。

3) 新しい観光の流れ

境港市には旅館のような宿泊施設はあるが、街中に観光客が宿泊するホテルは1つもなかった。私たちも郊外のホテルに泊まったが、境港を訪れた観光客の多くは米子市の皆生温泉や松江市の玉造温泉などに泊まるが多かった。

しかし今、水木しげるロード沿いに新しく11階建てのホテルが、来年1月の開業を目指して建設中で、大きな期待が寄せられている。



近年では大型クルーズ客船が寄港し外国人などの観光客が増えてきている。昨年は14回 14,000人、今年は23回 19,000人、来年は50回30,000人を見込んでいます。また平成31年には新しいクルーズのターミナルが完成する。

4) 所感

境港市には山あり谷ありの風光明媚な景色もない、歴史的な史跡などもほとんどなく、魚の水揚げ基地として栄えてきた町である。その魚の水揚量が減少してまちが活気を失っていく中で、目をつけたのが妖怪であった。

妖怪のまちとして売りだした境港市の観光戦略は、同市に向かう米子駅の0番ホームから始まる。JR境線の列車名も、駅名も妖怪の名前にし、境港駅から水木しげるロードが始まり、水木しげる記念館、おさかなロード、はく製水族館「海とくらしの史料館」と続いていく。

松阪市の観光施設が「点」であるのに対して、同市の観光施設が「線」でつながっているところが強みである。

境港市の観光において、「妖怪」は、何も無いところから生み出した新しい観光資源である。このような発想をしていけば、どこのまちでも眠っている観光資源を新しく生み出すことができよう。

境港市の観光客の入込客数が順調に増加してきて、水木しげる氏をモデルとした「ゲゲゲの女房」がNHKで放映されると観光客数は大幅アップとなりその後減少傾向にある。歴史が刻まれた観光施設には、何度きても楽しめる歴史の重みがあるが、新しい観光施設は飽きられることもあろう。それでも境港市には年間200万人近い観光客が訪れているのはうらやましいが、同市として新しい戦略が必要であろう。

人気漫画家水木しげる氏が11月30日に亡くなった。自分は120歳まで生きると言われていたということであるが93歳であった。水木氏は戦争で片腕をなくし、漫画家になっても売れない時代が続いたが「ゲゲゲの鬼太郎」などがヒットして日本を代表する漫画家になっていった。水木しげる氏の冥福を祈りたい。